

古墳出土龍文透彫製品の 分類と編年

Classifying and Chronicing Dragon Design Openwork Products
from Ancient Tomb Artifacts

高田貫太

TAKATA Kanta

はじめに

①研究略史

②龍文透彫製品の分類と編年

おわりにかえて

【論文要旨】

古墳出土の龍文透彫製品は、透彫文様における肢構成の崩れ、蹴り彫りによる細部表現などの諸属性から、龍文の退化の様相を読み取ることができる。よって、先行研究を参考としつつ、肢構成を主たる基準としⅠ～Ⅲ式の型式系列を提示した。龍文の変遷を単系的に把握することのみでは不十分であるので、次に、龍文の多様性から前肢平行系、前肢相反系、蛇行状尾系という3つの小系列を設定し、Ⅰ～Ⅲ期の相対編年案を提示した。そして、すでに相対編年がある程度確立している馬具や鉄鏃、土器など共伴する副葬品の検討を通して、龍文透彫製品の相対編年の妥当性を検証した。さらに、小系列の祖形を中国遼寧省を中心とした三燕地域に求めた。

最後に、このような相対編年案の検討を通して、龍文透彫製品の系譜が三燕地域－高句麗地域－洛東江以東地域を中心とした朝鮮半島－日本列島という関係の中で追えること、その日本列島への導入（製品の搬入、製作工人の渡来）には洛東江以東地域を中心とした朝鮮半島との不断の交流が必要であったことを指摘した。

【キーワード】 龍文透彫製品、分類と編年、型式学、古墳時代、日朝関係